



# JARA NEWS

JAPAN AUTOMOBILE RECYCLE NETWORK NEWS

Vol. 86 APRIL 2015 <http://www.jara.co.jp>

Published by JARA Corporation  
Tokyo Head Office: Shinwa Bldg. 1-2-2-7F  
Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo, JAPAN 103-0027  
Phone: +81 3 3548 3010 / Fax: +81 3 3231 4690



通は活発化し、会員同士の交流も目立っている。連携による効果が出ており、今回の統合で「より強力な体制が築けるようにしたい」（土門五郎会長）考えた。両社は今後、統合協議を本格化させ年内に基本合意を

## JARAとビッグウェブ、経営統合に向け交渉開始

自動車リサイクル部品流通ネットワーク運営大手のJARA（北島宗尚社長、東京都中央区）とビッグウェブ（服部厚司社長、愛知県あま市）は経営統合に向けて交渉を開始することを明らかにした。JARAは昨年4月に旧SPNと旧エコラインが合併し誕生した。今回の交渉が実現すれば、システム会員数は業界最大の約250社となり事業規模はさらに拡大することになる。使用済み自動車の確保難や他社との競争激化など課題が山積する業界の再編が加速する。

「（統合することによる）メリットのほうがデメリットよりも大きいと考えた」。JARAの北島宗尚社長は12日に東京都内でビッグウェブと開いた共同記者会見で統合の意義を強調した。両社はこれまでネットワーク連携による部品の相互流通やBESTリサイクラーズアライアンス（BEST）での合同研修など、密な連携を進めてきた。その結果、組織間の部品流

目指す。

統合に向けた議論について、服部社長は「組織風土の違いもあるので、皆さんで協議して解決していく」重要性を指摘する。1986年設立のビッグウェブは業界の中で最も古いリサイクル部品流通会社として市場の開拓を行ってきた。一方でJARAは昨年4月に旧SPNと旧エコラインが合併して事業を開始したばかり。両社のこれまでの境遇は全く異なっており、統合後の経営体制をどのように築くかが焦点の一つになりそうだ。

BESTにはSSG（浜田泰臣社長）とARN（岡田誉伯会長）が参加しているが、この2社とは「今までどおりだ。ARNとは（部品の）相互流通もやっているのだから協力を続けていく」（服部社長）という。

自動車リサイクル部品業界は使用済み車の「タマ不足」だけでなく、部品運送費の高騰などもあり経営環境が厳しさを増している。リサイクル部品の普及も進まず、足踏み状態が続く。両社は現状打破に向けて「生き残るための流通拡大と組織拡大」（同）につな

## CO2削減数値(SPLシステム)

リユースパーツ使用による  
CO2削減効果参考値  
平成27年2月

# 2,883t

※一般、中・大型含む車を修理する際、新品部品を使用して修理する場合に出るCO2排出量とリサイクル部品を使用して修理する場合のCO2排出量の差がCO2削減数値になります。

一般社団法人日本自動車リサイクル部品協議会と早稲田大学環境総合研究センターがLCA（ライフ・サイクル・アセスメント）の考え方にに基づき共同開発した「グリーンポイントシステム」より参照。

げていく。統合が実現した場合、組織としての規模はさらに増すことになるが、各加盟会員の収益性をどこまで高められるかが課題となる。

日刊自動車新聞2015年3月19日（木）

## リサイクルの現状と課題

—中—

将来的な国内での使用済み車発生台数減少が予想される自動車リサイクル業界。団体によっては車両買い取り事業者やオートオークション（AA）事業者などとコンタクトをとり、入庫を確保しようと言う独自の取り組みも見受けられる。資源の抽出などを積極的に

## 経産省と環境省、 自り法見直し 三つの観点を主題に 専門合同会議で議論

自動車リサイクル法の論点整理の議論が17日から始まった。これに先立って、経済産業省と環境省はこれまでの関連団体から行ったヒアリングを通じてまとめた自動車リサイクル制度の見直しに向けた主な論点を発表。両省は自動車リサイクル法の施行状況や課題について、三つの観点を主題として専門の合同会議で議論を進める考えだ。参加委員からは様々な指摘や意見があがっており、結論の方向性として現制度を維持するかどうか注目が集まる。このなかでは「自動車リサイクルの国際展開」が初めて議論される見通しで、活発化する自動車リサイクル業のグローバル化が合同会議の論点として浮上してきた形だ。

17日に開かれた合同会議では、まず行政側担当者が自動車リサイクル法の評価・検討に向けた論点整理について説明を行った。提示した三つの論点は(1)自動車における3Rの推進・質の向上(2)自動車リサイクル制度の安定的かつ効率的な運用(3)今後

の自動車リサイクル制度のあるべき姿一だ。

「自動車における3Rの推進・質の向上」では2R(リユース・リデュース)の推進、次世代車や新素材の多様化への対応強化を検討事項としてあげている。

自り制度の「安定的かつ効率的な運用」では、主に制度自体への言及が中心となる。ユーザーに対するリユース・リビルト部品の認知度向上や、特定再資源化預託金の活用方法の検討、指定法人の役割の整理などのリサイクル全体の社会的コスト低減が柱となる。また引き取り事業者の不明確さへの指摘が多くあがったことから引き取り事業者の在り方についても論点に含まれそうだ。また解体事業者からも改善の声があがっていた違法ヤードや不適正処理への対応強化も検討の必要性があったとした。特定再資源化物品などについては関連事業者による不適正な処理や虚偽の移動報告が確認されており、リサイクルの進捗状況などについてモニタリングや評価など対策の充実について議論することを記した。

「今後の自動車リサイクル制度のあるべき姿」では、「自動車リサイクル制度の持続的かつ自立的な発展」を論点として提示した。自り制度は、新車

市場の変化や資源価格の変動など周辺環境に対応する柔軟性と社会コスト低減が常に求められることから、対応策を講じる必要性について検討する。そして、将来的には大きな議題となる可能性がある「自動車リサイクルの国際展開」では、解体事業者だけでなく有識者などからも「新興国の廃車問題といった課題解決のためのノウハウを提供し、積極的に地球環境に貢献すべき」という声があがる。合同会議では、日本のこれまでの技術や制度をどのように活かして、世界に貢献するかを検討していく。

参加委員からは、指定法人の役割や業務の意義、次世代車における希少資源の回収やリサイクルを行う場合のバリューチェーンの構築の必要性といった意見があがった。

合同会議ではこのほか、日本損害保険協会でのヒアリング結果やASRの再資源化状況、次世代自動車の状況についてそれぞれ説明した。今後の議論は三つの観点をそれぞれ各論として合同会議で進めていく。当初は年度内を目標にまとめる方向だったが、論点の整理などもあり、遅くとも今夏までに報告書の取りまとめを行う見通しだ。日刊自動車新聞 2015年2月19日(木)

### —前ページの続き

行う東日本自動車解体処理協同組合では「東日本モデル」と呼ばれる精緻な解体を展開している。部品から取り出せる素材の分析を重ねるなど、「入庫台数が少ない中でいかに付加価値を高められるかに努力している」(坪千代志理事長)。少なくなるパイの中で、事業性をどう見いだしていくかという経営努力は欠かせない。

事業環境における大きな問題として多くの参加者が言及したのが、「物流費の高騰」だ。ネット通販の隆盛もあり物流量が増加、運送会社側の人手不足もあって運送費は高騰している。

「物流の値段があまりにも上がりすぎている」(シーライオンズクラブ・尼岡良夫会長)と言うように、すでに予想以上のコストがかかっていると話す参加者が多かった。リサイクル部品事業者が部品運送費を負担する場合とユーザー側が負担する場合両方あるが、部品価格に加えて運送費も加えると新品部品に対する価格の優位性は低くなる。

解決の糸口を探る動きはある。システムオートパーツは共同倉庫として横

浜に倉庫を借り、一部の在庫部品を管理する。佐藤勇輝専務は「横浜なら一日で博多まで着く。私の会社は秋田だが、取引がなかった会員とも取引が増えた。単純に市場が広がる」と指摘する。運送する量がカギとなる物流では、共同倉庫は新たな突破口となる可能性もある。一方でNGP日本自動車リサイクル事業協同組合ではエンジンやバンパーの梱包にリターナブル資材を使うなどコスト低減に向けた動きを強めている。物流はリサイクル部品を運ぶ上でいわば「アキレス腱」であり、今後も重要なテーマとなりそうだ。

市場拡大に向けて望まれるのが、リサイクル部品のさらなる普及促進だ。日本国内の自動車補修部品市場におけるリサイクル部品のシェアはわずか5%とされる。深澤広司会長(リビルト工業会全国連合会)が「欧米と比べても、(日本は)消費者の価値観が違う」というように一般消費者のリサイクル部品に対する認知度はかなり低いと見られる。商用車も例外ではなく「乗用車に比べて認知度はさらに低いのではないか」(日本トラックリファ

インパーツ協会・宮本眞希代表理事)という段階だ。

社会での活用促進と認知度向上に向けた、施策はすでに行われている。日本自動車リサイクル部品協議会(リ協)の清水信夫会長は「損保業界など5団体でエンドユーザーに向けたPRを行っている」ことを紹介。リ協は東京都内のJR駅前でリサイクル部品の特徴を記したチラシを配布するなど啓発活動を積極的に進める。北海道内リサイクル部品ネットワークであるエス・エス・ジーは「一般消費者にチラシ配布を行い、昨年は整備工場様に貼っていただく消費者向けのポスターを作成した」(浜田泰臣社長)とユーザーを意識した取り組みを重視する。リサイクル部品を活用するのは修理を行う整備事業者などであり、最終利用者はエンドユーザーである一般消費者だ。広く普及するためにはやはり周知活動は重要であり、地道かつ粘り強く取り組むことが必要になる。

日刊自動車新聞 2015年2月6日(金)

**KOBELCO**

低燃費のコベルコ!  
低炭素社会の実現へ

## コベルコが提案する 新しい考え方

1979年世界初の自動車解体機の発売以来、  
30年以上にわたって金属リサイクル分野で常にリードし、  
環境負荷の低減に貢献してきました。

### マルチ解体機

使用済み自動車の解体以外にも廃家電などの金属製機器の解体および  
さまざまな複合廃棄物の解体・分別作業が可能です。



SK135SRD

SK2100

コベルコ建機株式会社  
<http://www.kobelco-kenki.co.jp/>

**KOBELCO**

We Save You Fuel  
Reducing a Carbon Society

## New ideas come from KOBELCO

Since launching the world's first car-dismantling machine in 1979,  
KOBELCO has continued to take the lead in the metals recycling industry.  
For over 30 years, we have contributed to reducing environmental impact.

### Multi-Dismantling Machine

In addition to dismantling end-of-life cars,  
Multi-Dismantling Machine can break down  
various metal products and equipment  
such as used household appliances and  
can separate and sort various composite  
material wastes.

### Car-Dismantling Machine

Car-Dismantling Machine efficiently  
separates and sorts raw materials in  
end-of-life cars and is able to recover  
rare earth metals.



SK2100



SK2100

**KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY EUROPE B.V.**  
<http://www.kobelco-europe.com/>  
**KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY U.S.A. INC.**  
<http://www.kobelco-usa.com/>

**KOBELCO**

神鋼 无坚不摧!  
您满意的选择

## 新构想源于神钢

1979年世界第一台汽车拆除机发售以来，  
30多年来一直引领金属再生领域，  
在降低对环境压力方面功不可没。

### 多功能拆除机

不仅可以拆除不再使用的汽车，还可以  
拆除废家电等金属制机器以及各种复合  
废弃物品的拆除、分类作业。

### 汽车拆除机

可快速进行报废汽车内素材的分类作业，  
能够回收稀金属资源。



SK135SR

SK200

成都神鋼工程机械(集团)有限公司  
<http://www.kobelco-jianji.com/>

**KOBELCO**

We Save You Fuel  
Reducing a Carbon Society

## 새로운 발상은 KOBELCO에서

1979년 세계 최초로 자동차 해체기를 출시한 이래,  
30여 년에 걸쳐 금속 재활용 분야에서 항상 앞서서서  
환경 부하 저감에 공헌해 왔습니다.

### 멀티 해체기

용도 폐기된 자동차의 해체 외에도 폐가전제품 등 금속제 기기의  
해체 및 다양한 복합 폐기물의 해체·분리작업이 가능합니다.



SK135SR



SK200

 (주)삼정건설기계  
<http://www.samjung-kenki.co.kr/>



Go Go Japan Industry (M) Sdn Bhd

Lot 15, Jalan 4/32A,

Mukim Batu Industrial Area, 6½ Mile Off Jalan Kepong

52000 Kuala Lumpur, Malaysia.

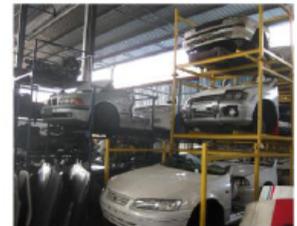
Tel : 03-62415258 Fax : 03-62415285



高品質  
High Quality  
品质高超



低価格  
Reasonable Price  
价格合理



迅速なデリバリー  
Speedy Delivery  
交货迅速



優れたサービス  
Excellent Service  
服务卓越



For Enquiry, Please Contact / 询问洽购, 请联络 : 03-6241 5258

< Parts Supplying Fully Back Up by HIDA TEC Japan >

Tel : 025-539-1515

Email: narc-2001@helen.ocn.ne.jp



JOUETSU Branch

Tel : 025-274-1516

Email: narc-2004@ace.ocn.ne.jp



KAETSU Branch